

# 1967年県勢ビック・テン

- 1 岩手国体正式に決まり、県営体育館の完成など準備体制着々進む。
- 2 四十四田ダム貯水開始し、北上川清流にもどり、県営四十四田発電所の発電はじまる。
- 3 県産米五十万トン達成運動はじまり、史上最高の米収四十四万トンを確保す。
- 4 第二期千田県政スタートし、副知事二人制など執行体制整備なる。
- 5 チリ地しん津波対策事業完工す。
- 6 岩手山ろく国営開拓事業完工す。
- 7 大船渡港、開港場として指定され、木材コンビナートの構想なる。
- 8 全国初の辺地奨学金制度発足す。
- 9 東北縦貫自動車道仙台～盛岡間の整備計画成り、盛岡～十和田間の基本計画決まる。
- 10 工業試験場、水産種苗センター、県立図書館完成し、成人病センター着工するなど産業・教育・厚生の一諸施設整備着々進む。

今年も、残るところもうわずか。旧年をおくり、新年を迎えるのは、流れる大河のほとりにたたく気持です。流れ過ぎようとする一九六七年、みなさんには果してどんな年だったでしょうか。こうした一年間の県政を回顧、反省し、来たるべき年への礎にしようとして、去る十一月末、恒例の県勢ビック・テンが決まりました。

ビック・テンの選出は、昭和二十五年から始め、主にその年に成果があがった県の施策の中から選んできたものです。今年はビート問題、県北沿岸部の集中豪雨など暗いニュースもありましたが、県民に明るい話題をの考えもあって一位の岩手国体決定、二位の四十四田ダムの貯水開始など、全般に明るい面が選ばれています。県政も一歩一歩着実に進歩の道をたどっているといえるようです。

このほか、選にもれたものには「八幡平観光道路の使用開始」「小本線浅内～岩泉間の着工」「北里海洋研究所の一部完工」「盛岡市中央卸売市場の着工」「県営和賀中部大規模圃場事業の着工」「国立重症心身障害児施設の釜石市設置決定」「県中小企業設備貸与公社の開設」「豪雪山村開発センターの沢内村設置決定」などがあげられ、いずれも明るい話題となりました。



## ① 岩手国体正式に決まり、県営体育館の完成など準備体制着々進む

東北では初のつり屋根式の県営体育館

七月四日、東京・日本体育協会国体常任委員会総会で、「昭和四十五年（第二十五回）岩手国体」が正式に決定されました。

「岩手に国体を」のうぶ声があがったのは昭和三十八年。十四年ごしの悲願がここに結実したわけです。三年後の四十五年には、釜石市を中心に夏期大会（九月）、盛岡市を中心に秋期大会（十月）が、約二万五千人の大会役員・選手を迎えて、盛大に開かれることになりました。

この岩手国体は、すでに昨年七月十八日に内定されていたものですが、正式決定以後、七月二十九日には、これまでの国体準備委員会を国体実行委員会に改め、施設整備、選手強化、県民運動などが力強く展開されています。七月には、体操会場に予定されている県営体育館が盛岡市青山町に完成。三億二千万円の工費で東北では初めて全国でも数少ない「つり屋根式」約三千人を収容。各会場市町村でも、すでに完成した久慈市の柔道会場をはじめ、三十六会場は一応準備され、他の新設会場も明年度完成をめざして急ピッチで建設の槌音をひびかせています。

問題の道路整備も、各会場と盛岡を車で二時間以内につぶ整備計画が進められ、また四月には、国体への県民総参加をねらいに県民運動推進協議会が発足し、活動を開始しました。

### 12月号もくじ

- 1967年県勢ビック・テン……………1  
県政ビック・テンの内容を紹介  
します。
- 20年の県政を語る〔座談会〕……………6  
地方自治施行20周年を記念し  
県議会の審議を中心に座談会  
を開きました。
- 三陸沖のイカ釣り（グラビア）……………10
- ふるさと再訪（除夜の鐘・中尊寺）……………13
- 市町村の広報広聴活動のみる……………14
- 農協の育成強化……………15  
20歳を迎えた農協の現状など  
をみます。
- おしらせ……………18
- 消費者のページ（物価と生活）……………19
- 県民室だより（宅地造成を規制する）……………21
- 国体施設めぐり⑧（水沢競馬場）……………22

## ② 四十四田ダム貯水開始し、北上川清流にもどり、県営四十四田発電所の発電はじまる

十月十八日には、待望の四十四田ダムの貯水が始まりました。三十七年十月、治水・発電の多目的ダムとして、建設省が盛岡市下厨川四十四田に「北上川五大ダム」の四番手に着工したもので、総工費は六十三億円。四千七百万平方メートルの貯水能力があり、来年四月ごろから活動を始めます。

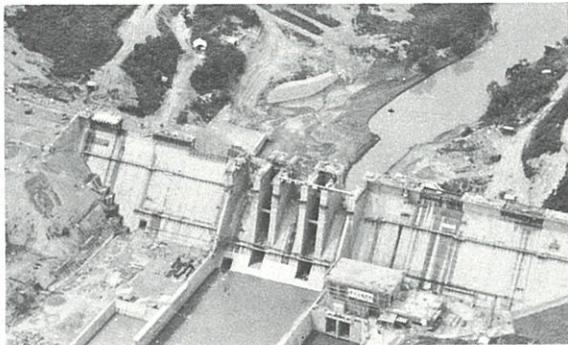
このダムの水を利用した県営第五番目の四十四田発電所も、十一月二十一日通水式を行ない、初めて発電



豊作で倉庫からあふれる米

機が始動しました。同発電所は、三十九年に総工費十七億七千万円で着工最大出力は一萬五千キロワット本県では初のダム式発電所です。年内に営業認可を受けて営業運転が開始され、東北電力に売電して一般家庭に送電されます。

なお、ダムの貯水で、上流から流れる松尾鉱山の汚水が沈でんし、ダムの下流では北上川がほぼ清流に戻るなど、副次的効果も大きいようです



北上川をせき止める四十四田ダム

## ③ 県産米五十万トン達成運動はじまり、史上最高の米収四十四万トンを確保す

米の増収を通じて農家の所得をふやそうと、四月から県、市町村、農業団体が一体となって「二割増産、県産米五十万トン達成運動」が進められています。

現在の十アール当たりの収量四百三十三キロを五百二十三キロにふやし開田も一萬ヘクタール進めて、四十六年までに十六万トン増産しようというものです。

ところで、農林省岩手統計調査事務所の発表によると、十月十五日現在の今年県産米の最初予想収量は、水稲四十三万五千八百トン、陸稲七

千四百四十トン、計四十四万二千九百トンで、総収量は、これまでの最高だった四十年産の三十七万三千四百トンを約七万トンの上回る史上最高の大豊作となりました。

豊作の原因としては▽天候に恵まれた▽技術指導が徹底した、などがあげられますが、五十万トン運動で増産の機運が盛り上がり、計画の二倍の四千ヘクタールの開田が行なわれたことも大きな力となっています



重要事項は知事、副知事、部長で構成する庁議で決める

## ④ 第二期千田県政スタートし、副知事二人制など執行体制整備なる

四月十五日の統一地方選挙で、任期四年の新知事・県議員が生まれました。知事には、五十七万票の圧倒的多数で、再度千田正が県政を信託され、第二期千田県政が発足しました。

千田知事は「大県づくり」を錦旗に、七月三日には東北初の副知事二人制を、同七月十五日には最近の新しい行政需要に対処するため、交通安全対策局、青少年対策局、さらに物価問題を担当する県民生活課の二局一課をそれぞれ発足させました。

二副知事のうち、中村直は総務、出納など主に管理部門を国税庁会計課長から転出した小口芳彦は農林、土木など主に事業部門を担当することになりました。

## ⑤ チリ地しん津波対策事業完工す

三十五年から七カ年にわたり、県沿岸部で進められていたこの事業は全面的に完了し、十月十三日、陸前高田市で完工式が行なわれました。この事業には約七十億円が投じられ本県史上最大の規模の事業といわれます。

事業は建設省、運輸省、農林省、水産庁がそれぞれの所管ごとに行ない、海岸、港湾、干拓地、埋立地、道路などに総合的に実施されました。特に大船渡市など沿岸十一市町村にあわせて五十五・一キロの防潮堤、五百八十一メートルの防波堤、〇・六ヘクタールの防潮林などが完成しました。

思えば、チリ津波は安保反対を叫



津波をシャットアウトする防波堤(大船渡)

ぶデモ隊が国会周辺をとりまいていた三十五年五月二十四日午前四時、地球の裏側の南米チリから、音速に近いスピードで日本列島を襲い大きな被害をあたえたものでしたが、本県の沿岸はこの程度の津波なら十分シャットアウトでき頭を高くして眠れることになりました。

同港からの積荷は、ここ二、三年年間約四十万トンになっているので、トシ税収入は年間約八百万円と見込まれています。十月一日には厚生省から植物防疫法により検疫港としても指定されました。

また、木材コンビナートの構想は最近の原木不足から外材に依存しなければならず、同市の臨海工業用地(県有地)に製材・合板関係の企業を誘致して木工団地をつくり、同港に荷降ろしされた木材の内陸部への

## ⑦ 大船渡港、開港場として指定され、木材コンビナートの構想なる

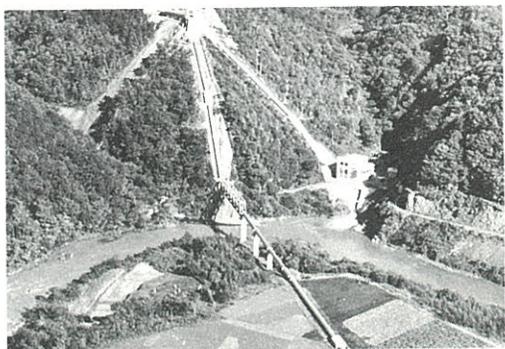
六月一日、大蔵省から関税法に基づいて指定され、金石、宮古について本県三番目の開港です。指定によって外国航路と直結するので、対外信用の面で遠うばかりか、外航船への積荷からトシ当り二十万のトシ税が同市に入ることにになり、大きな利益をもたらします

## ⑥ 岩手山ろく国営開拓事業完工す

「国営岩手山麓開拓建設事業」の完工式が、七月十五日、盛岡市体育館で挙行されました。

二十六年の歳月と国費五十四億円を投入したもので岩手町、西根町など七市町村にわたる岩手山ろく一帯の一万二千ヘクタールを範囲に、標高二百四十メートル以上の原野に二千四百七十七ヘクタールの開田をし、標高二百四十メートル以下の開こん適地に五千八百六十九ヘクタールの開畑を行なったものです。

かんがい用水として岩洞ダムから十六キロの導水路を改設し、逆サイホンによって北上川を横断、地区内に敷設した道路は、盛岡―東京間に相当する四百八十四キロにもおよぶ



岩洞ダムから岩手山ろくに導水する逆サイホン

という大事業でした。関係者が研究した漏水防止の開田工法も実り、増反農家二千二百戸、開拓農家千七百戸の中からは、年収百万円台の七ヶタ農業も生まれています。



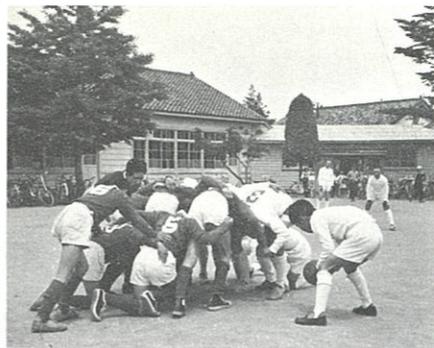
発展する大船渡港

### ⑧全国初の辺地奨学金 制度発足す

経済的理由で高校進学ができない辺地校の生徒、一般母子家庭の子弟の高校進学者を対象にした特別奨学金制度は、六月補正の知事査定で本年度の県費補助一千万円がつき発足することになり、恵まれない辺地の生徒に朗報をもたらしました。

本年度中には五人、来年度からは毎年新規に四十人づつ、月三千万円または六千万円を貸し付ける計画で、六月には「財団法人岩手奨学会（理事長・知事）」をつくって、運営をすすめています。

同会の基金は、最終的には二億円を目標にしており、募金をつのっています。貸し付け人員やワクも今後ふやしていく方針です。



辺地校生徒にも朗報が

### ⑨東北縦貫自動車道仙台 盛岡間の整備計画成 り、盛岡～十和田間の 基本計画決まる

十一月九日、国土開発幹線自動車道建設審議会で、建設省がまとめた東北縦貫自動車道青森線仙台～盛岡間など三路線五区間の整備計画と、同線盛岡～十和田間など九路線十四区間の基本計画を審議した結果、原案通り了承、正式に決定されました。これによって仙台～盛岡間は来年度から着工され、現在三時間半かかるものを約一時間半前後で結ぶこと

になり、さっそうく日本道路公団による用地買収にとりかかることになりました。

本県にも、高速自動車道でつなぐ「夢のハイウェイ」が実現するわけです。盛岡～十和田間は来年一月に整備計画がつくられ、これも近々着工されます。

▽仙台～盛岡 181.1キロ、総工費七百四十億円、四車線、来年度から着工、設計速度は八十八～百二十キロ。

▽盛岡～十和田 187.7キロ、総工費五百八十億円、四車線、設計速度は同じ。

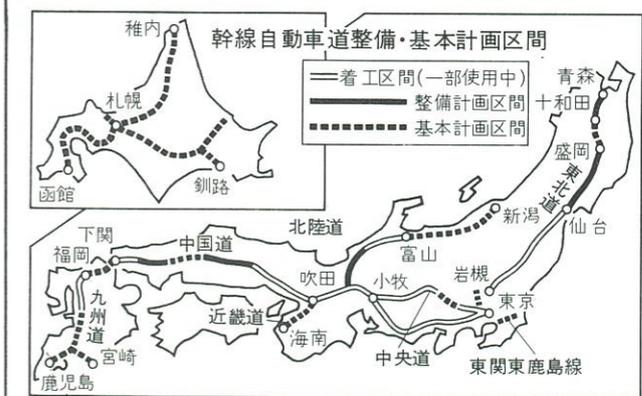
八十万個、以後年間百六十万個の稚貝を生産し、十年後には三億円の水揚げ増を期待しています。

▽県立図書館 総工費二億一千三百万円、昨年十一月一日着工、十二月中にはほぼ完成します。一般使用開始は二月、鉄筋コンクリート造り二階建て一部三階地下一階、東北一の規模で蔵書数も二十七万冊にふやす計画です。

▽成人病センター 県立中央病院わきに総工費五億九千万で七月三十日着工、完成は四十四年三月です。地上五階、地下一階、ベット数は百東北では宮城県成人病センターに次ぐ二番目の施設です。



アワビ人工増殖にのり出した水産種苗センター



# 県議会を中心に 20年の県政を語る

## 出席者

元議長 内村 一三  
橋本 八百二  
金子 太右衛門  
前議長(県議) 山崎 権三

自由民主党(県議) 岩持 静 麻  
日本社会党(々) 菊池 伝 助  
県政同志会(々) 岩城 惣一郎

(司会)  
議長 千葉 一



この座談会は、県議会が地方自治法の施行二十周年を記念して開催したものです。このなかでは国分・阿部・千田と三代にわたる知事のエピソードをふくめながら「町村合併」「国体のあり方」、さらに「県政の方向」などが興味深く語られています。

## 国分県政

千葉 昭和二十二年に地方自治法が施行され、二十年になりますので、この機会に国分、阿部、そして現在の千田知事と三代にわたる県行政の跡をかえりみ、かつ、その中でわれわれの先輩が果たしてきた役割を考え、さらには今後大きく進展しようとする本県の方向を定める一助にもしたいと思えます。

まず、国分知事の時代ですが、この時代は官選知事から民選知事にかわり農政には相当力をそそいだと思えます。この点はいかががですか

## 国分さんは救世主

橋本 官選知事の時は中央からひょっこり岩手に来て、一年か二年で帰ったのですが、民選知事になり、県政に腰をおちつけてやるという点では大きなプラスになったと思えます

また、国分さんの県政については、たとえば「わらじ」ばきでも県庁に行けるといふような県民と直接に結びついた県政民主化に重点をおいた所に良さがあつたと思います。

内村 国分さんは国の行なっていた全国同一方向の農政に反発し、適地適産と寒冷地農業を自ら先頭に立てて実施し、戦後の食料不足の時代になんとなく飯を食わせてくれる救世主のような存在でした。

岩城 国分県政は、米作を自給県から移出県にしたことが基本的な流れであり、それが多目的ダムを作り、今日の県産米五十万トン生産運動と大きく飛躍している。この基礎をつくったのは国分さんであり、これは高く評価して良いと思う。

金子 農政については自信たっぷりでしたが、就任した当時の知事は議会で陳謝ばかりしていた。

国分さんはまた目では笑っていましたが、顔だけはまじめな顔をしていました。笑わない時は皇室のお話をすると、議場で国分農政をこっぴどく批判された時で、この時は、おこった感じで「君よりは私の方が農政について先輩である」とはねつけたことがあり、農政については自信をもっていました。

千葉 昭和二十二年には、教員組合の代表者と国分知事との団体交渉中における、いわゆる知事の転倒事件がありました。この事情はどうい